



# 陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESING WORKS /2008/All Rights Reserved

2025 年 1-3 月号

Vol.68

## 支援者の皆様へ

支援者の皆様、いつもお祈りと尊いご支援を心より感謝します。

昨年秋に様々なストレスが重なり体調を崩していました（鬱の再発ではありません）が、年が明けてから活力が戻ってきて諸々の執筆活動や動画配信や教会での説教など、充実した日々を過ごしています。1月29日には次女が5歳になり、その日は次女を養うために始めた個人事業「私塾 陣内義塾」の5周年でもありました。「日本初の教会コンサルタント」を名乗り NGO と個人事業の兼業で生計を立てるようになって5年間、感謝なことにこれまでお客さんが途絶えたことはなく、殆どの方がサービスに満足して長期的に利用を続けてくださっています。「教会に仕え、建て上げる／人々がイエスの似姿に近づくお手伝いをする」という私の生涯の召命を「持続可能」にするために始めた副業ですが、これからの時代の主の働きのロールモデルとして歩むためにも大切だと感じています。後に触れる FVI の湯本沙友理さんのように社会起業家として国際協力活動をする方や、私たちがこれまで考えたこともないようなクリエイティブな形態で主の働きをしていく方々がこれからの時代、たくさん現れてくると私は思います。私自身も「これまでの仕組みを守り、維持する」という静的な持続可能性だけではなく、「これまでの積み上げを大切にしながら、今までになかったものを生み出していく」という動的な持続可能性も同時に追求していきたいという願いを主から与えられています。



次女ななみの5歳の誕生日



小学生時代の私が動物好きになった理由のひとつ・東山動物園の前で

## 久米川さんとの再会／Podcast リスナーの F さんと邂逅

FVI のカタリスト（2023 年から）でエチオピアのストリートチルドレンの支援や農村地域の教育支援を長年してきた湯本沙友理さんが結婚されました。名古屋での結婚式に家族で参列した足で蒲郡に行き、2 年ぶりに母教会の ICBC に滞在しました。私の母と二人の娘が遊んでいるのを見るのは格別な思いがありましたし、『もしイエス様が市長だったら』の販売を担ってくださっている ICBC 内にある個人出版社のスマイルブックスさんにも感謝をお伝えできました。また、ICBC で最も古くからあるセルグループであり「聞き屋ボランティア」の実践を私に教えてくれた「豊橋セル」はこの 3 年ほど、陣内義塾のお客さんとして月一度の Zoom での学び会をさせていただいています。

20 代を過ぎた母教会と今もこのように様々な形のつながりがあり、陰に陽に支えられ続けています。その母教会に「恩返し」するほどのことが私にできるとまったく思いませんが、ICBC とその人々を通して注がれた神の恵みを少しでも「恩送り」するために、与えられた領域で神の国の福音を生き、広げていきたいと思われています。蒲郡での再会／出会いの中でも「さんかい」での久米川さんとの再会は特別でした。市役所職員だった 2007 年に、同じ「さんかい」という東三河のローカルファミリーレストランに久米川さんをお呼び立てし、「宣教の世界に飛び込もうと思っているので、支援会を立ち上げたい。私が知る人の中で最も信頼できるのが久米川さんなので、どうか支援会の会長をお引き受けいただけませんか」と不躰にもお願いしたのです。久米川さんは当時、ふたつの思いを持っておられたと後に教えてくれました。ひとつめは、ICBC で自分の役目はもう終わったかもしれないので自分のこれからの信仰について、別な教会に行くなどの道もあるかなあということ。もうひとつが ICBC の未来を考えたときに「俊くんこそがその未来を背負っていく人材なのは」ということだったと。その私が市役所を辞めて蒲郡を離れ、広く世界や日本の教会に仕えたいと言っていて、しかもその支援会を担ってほしいと逆に頼まれている。



蒲郡・ICBC の前で母と



17 年ともに歩んでくれた恩人の久米川さん

2 月に話したとき、「あれは私にとっても大きな出来事だった。自分の役目は終わったかもしれないと思っていたけれど、次の世代の主の働き人を後方から支えるという召し出しをあのときに神様から与えられたと感じた」と仰ってくださいました。親子ほども年の離れている久米川さんは、私が鬱を罹患したときも、コロナ禍も、結婚し子どもが生まれても、神の国のために同じ志で伴走してくださいました。久米川さんやこれを読む支援者の皆様のよう誠実な神の人々によって御国の働きは前進していくのだと強く思います。

愛知県ではもうひとつ、思いがけない素敵な出会いがありました。2020 年に仕事で悩んでいたときに私の Podcast「私塾 陣内義塾」に出会い、以降ヘビーリスナーとして聞き続けてくださっているデザイン会社を経営する F さんと社員の O さんと食事を共にしたのです。お二人はクリスチャンではないですが、この 4 年間、私の放送を聞き続けてくださり、「陣内さんの放送に出会って人生が変わった、豊かにな

った」と仰ってくださいました。「恩人である陣内さんをお迎えするのだから」と、会社のオフィスに布団を用意してくださり家族を宿泊させてくださるだけでなく、まる一日予定を空けて長久手／名古屋をエスコートしてくださいました。厚い歓待に恐縮するとともに、細々と続けてきた情報発信がこのようなかたちで届いていることを本当に嬉しく思いました。教会の中にも外にも、「愛することの大切さ」や「人生やこの世界についての信実な言葉」、「人生を意味あらしめる希望の言葉」は確かに届きます。教会の外の他者に聖書のメッセージの本質が届き、その人の生を豊かにするということをもって「福音の伝達」と私は考えていますから、この出会いは妻や私にとって格別な励ましとなりました。

## 3月～4月に控えているもの

---

3月末から4月はじめにかけて、熊本県阿蘇郡の教会を訪問します。3年前、とあるセミナーで私が講師をしたところから私のPodcastを聞いてくださるようになった熊本の2人の牧師との出会いからこの訪問が実現しました。訪問する教会では『もしイエスが市長だったら』を毎週学び、この本を教会形成の理念にしようと願ってくださっています。地域に仕えること、被造物ケアの福音を生きること、貧しい人々に手を差し伸べることなど、すでに様々な実践を展開されている教会に私が行って「教える」というのもおこがましい話なのですが、「宇宙大の福音をもって地域社会に仕える教会」を目指す地域教会に助力の機会が開かれていることは大きな特権であり恵みです。

また、昨年と同様、関東学院中高の高校3年生の最後の学年行事となる1泊の修養会でも奉仕させていただきます。「人になれ、奉仕せよ」というミッションスクールの校訓を深めるために、「思いやりと人とのつながり」というテーマで基調講演とワークショップのお手伝いをさせていただきます。生徒の多くはクリスチャンではありませんが、宗教主任のS先生を通して聖書のメッセージを聞いてきました。福音の豊かさや神の愛の広さ深さ、そしてそれを現代社会で生きるということがどういうことか、ということが伝わるように、生徒たちのその後の人生に福音的な影響力を与えるインプットになるように、お祈りくださいましたら幸いです。

## メッセージ要約『喜びの旅路』

---

アメリカの神学者ウィリアム・ウィリモンはキリスト教とは一連の教理でも人々の組織でも正しい行いのリストでもない、と言っています。ウィリモンは言います。「キリスト教とは、人が歩む旅に与えられた名である」と（『主の祈り』20頁）。では、「キリスト教という旅」はどんな旅なのでしょう。1. 共に歩む旅、2. リスクをとる旅、3. 終わりへの旅です。

ボンヘッファーが名著『共に生きる生活』に書いているように、キリスト者は「神の前にひとりである」と同時に「他者とともに生きる」存在でもあります。また、福音書の弟子たちにとってそうだったようにキリストとともに歩む旅路は「冒険の旅路」であり、それはリスクを回避するのではなくむしろ崇高な目的のためにリスクを取る歩みでもあります。人生の終わりのその向こうが見えているキリスト者は、「神の大いなる物語」の「中間走者」として自らの人生を未来の他者に手渡すのです。最後に、この地上の人生は天国に行くためのつらい我慢期間ではありません。スティーブ・ジョブズが言ったように「旅こそが報い」なのです。イエスと共なる「喜びの旅路」は、その旅自体が神からの報いであり、その過程で自己変容を経験した私たちは「イエスに似せられた自分」に出会うのです。

## 祈りの課題

- ◇純子・かなえ・ななみ・俊の体調が守られ、感染症、事故などからも守られるように。
- ◇3月に熊本（包括的宣教の訓練／視察）に行きます。健康、旅程が守られ会うべき人に会い、話すべきことを話せるように。熊本の教会を建て上げる触媒（カタリスト）として用いられるように。
- ◇福音的 LGBT アライの働きに対する誠実な批判は歓迎ですが、心無い中傷や非難を受けることも多々あります。主が私たち家族（と当事者の方々）を守ってくださりイエスの心と忍耐で活動を続けられるように。
- ◇YouTube／Podcast での発信を続けており、クリスチャンではない多くの方々にも聴いていただいています。聴いてくださる方々に神が日々を生きる希望を与えてくださるように。

## 2025年3月以降の主な活動予定

月 日	内 容	場所、補足
3月30日／4月7日	礼拝説教／ワークショップ	高森キリスト教会（熊本県）
3月30日～4月7日	熊本県各地の包括宣教視察／セミナー	熊本県
4月17～18日	関東学院中高 高3 修養会	鴨川グランドホテル（千葉県）
7月30日～9月初旬	季節性鬱の予防のための転地療養	北海道（札幌／川湯）
10月27日	FVI 総会	本郷台キリスト教会（横浜市）
随時継続的に	教会を建て上げる情報発信／訓練／啓発（エペソ4：12）	国内各地／オンライン

\* 上記は現在までで分かっている暫定的な範囲の予定です。

## 連絡先（奉仕・各種仕事のご依頼はこちらへ）

陣内への Email [shun@karashi.net](mailto:shun@karashi.net) 無料メルマガ、YouTube 放送、Podcast、ブログなど→「陣内俊」で検索

## ご支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座  
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」  
(同封の振込用紙がご利用いただけます。)

- \*振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- \*振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）
- \*Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。